

令和 6 年度
事業報告書

令和 7 年 6 月 4 日
一般社団法人 日本銅センター

目次

1. 活動履歴	P. 04
2. リサイクル・環境課題事業	
(1) 銅の循環性実態の把握	P. 06
(2) 鉄鋼の不純物としての銅回収	P. 06
3. STEM 教育事業	
(1) 経済産業省こどもデーへの参加	P. 06
(2) 第2回夏休み自由研究コンテスト実施	P. 07
(3) 「銅の日」のイベントの実施	P. 09
(4) 「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024」に参加	P. 09
4. ICA/JCDA 共同プロジェクト	
(1) 次年度 HVAC&R へ向けての準備	P. 10
(2) ヒートポンプ普及活動の支援と諸施策の調査	P. 10
(3) 自然冷媒への移行に関する情報収集	P. 11
(4) 導体サイズ最適化の推進	P. 11
(5) 高電圧直流送電等の分野で導体への銅採用促進に関する情報収集	P. 11
(6) 都市部における無電柱化状況把握	P. 12
(7) 洋上風力発電所の導入促進を支援	P. 12
(8) 超抗菌性能を持つ銅の広報	P. 12
5. その他のプロジェクト	
(1) 設立 60 周年記念式典・祝賀会	P. 13
(2) 超抗菌プロジェクト	P. 14
(3) 日本鋳業振興会研究助成事業	P. 14
(4) 日本銅学会との連携	P. 15
6. 銅管・板条技術関係特別事業	
(1) 銅管開発活動	P. 15
(2) 継手開発活動	P. 15
(3) 冷媒用被覆銅管活動	P. 16
(4) アルミ代替え防衛活動	P. 16

（５）銅板屋根構法普及活動	P. 16
7. PR 関係事業	
（１）機関誌「銅」の発行	P. 16
（２）パンフレット、リーフレット増刷	P. 17
（３）HP の維持管理	P. 17
（４）展示会への出展	P. 17
（５）HP 専門サイトの維持	P. 19
（６）はんだ付・ろう付講習会への協力	P. 19
8. 日本銅センター賞表彰事業	P. 19
9. 共通事業	
（１）学会、外部セミナー展示系等への参加	P. 20
（２）団体規格の認証・更新等	P. 20
（３）情報発信と適切な資料の開示	P. 20
<参考資料 1> 作成資料一覧	P. 22

1. 活動履歴

2024年4月24日 日本銅センターにおいて監事会を実施し、会計監査において令和5年度の決算会計が監査され適正且つ正確であることが確認され承認された。

2024年4月26日 日本銅センターにおいて高元業務委員長の司会により業務委員会が開催され、令和5年度事業報告書（案）、令和5年度決算報告書（案）、第51回日本銅センター賞受賞者が審議され、原案通り決議された。

2024年5月17日 第1回理事会（書面審議）により令和5年度事業報告書（案）及び決算報告書（案）が原案通り決議された。

2024年6月5日 ホテル椿山荘東京において野崎日本銅センター会長の司会により定時総会が開催され、令和5年度事業報告書（案）及び令和5年度決算報告書（案）、および令和6年度役員（案）が審議され、原案通り決議された。

2024年6月5日 ホテル椿山荘東京において野崎日本銅センター会長の司会により第2回理事会が開催され、令和6年度会長、副会長、専務理事（案）、令和6年度臨時総会議案（案）が審議され、原案通り決議された。

会長	小野直樹	三菱マテリアル株式会社 執行役社長
副会長	鬼王孝志	DOWAメタルテック株式会社 代表取締役社長
副会長	伊藤雅彦	株式会社フジクラ 取締役会長
専務理事	桑山広司	一般社団法人日本伸銅協会 専務理事

2024年7月2日 第1回臨時総会（書面審議）が開催され次の議案について原案通り決議された。

理事の一部変更

7/2 付で伊藤理事が辞任し、森平理事が就任

7/2 付で金原理事が辞任し、阿部理事が就任

2024年7月17日 第3回理事会（書面審議）により森平理事副会長就任（案）が原案通り決議された。

2024年11月6日 コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて、日本銅センター設立60周年記念式典・祝賀会が挙行された。式典には119名の参加があった。

2025 年 3 月 7 日 日本銅センターにおいて高元業務委員長の司会により業務委員会が開催され、令和 7 年度事業計画書（案）及び事業予算書（案）が審議され、原案通り決議された。

2025 年 3 月 25 日 日本銅センターにおいて小野会長の司会により臨時総会が開催され令和 7 年度事業計画書（案）及び事業予算書（案）について審議され原案通り承認された。

2025 年 3 月 25 日 日本銅センターにおいて小野会長の司会により 3 月度理事会が開催され令和 7 年度事業計画書（案）、事業予算書（案）及び令和 7 年度定時総会議案について審議され原案通り承認された。

登記届出

役員変更登記東京法務局手続完了(2024 年 7 月)

理事変更登記東京法務局手続完了(2024 年 7 月)

2. リサイクル・環境課題事業

(1) 銅の循環性実態の把握

(一社) 日本伸銅協会と協働で原料業界からのヒアリングに基づき実態調査を行った。また、関西高機能金属展で銅リサイクルに関するセミナーを行い、下記のとおり受講者から高い評価を得た。

METAL-5	持続可能な社会実現に向けた銅材料の貢献と銅リサイクルの実態
講演日	2024年05月09日[木] 15:45～16:30
(一社) 日本銅センター 事務局長 中山 宏明	
受講者数:52名 アンケート回収率:63.5% 満足度:78.8%	
(※敬称略。満足度=満足回答のパーセンテージ)	

1 講師・講演内容についての評価

非常に満足	満足	ある程度満足	満足していない	全く満足していない
30.3%	48.5%	18.2%	3.0%	

また、経済産業省製造産業局金属課の要請に基づき、従来1種類であった銅屑輸出のHSコードの細分化について、輸入の場合と同じく細分化することを提案した。この結果、2025年1月より3種類(銅線、黄銅、その他)に細分化されることが決定され、これにより、銅スクラップ輸出のより詳しい実態把握が可能となった。

(2) 鉄鋼の不純物としての銅回収

昨年実施した、国内銅資源マテリアルフロー調査の結果、行方が不明となっている19.5万トン/年のうち、約10万トン/年が鉄鋼材料に混入していることが推定された。そのため、総合材料商社である岡谷鋼機株式会社殿にコンタクトし、業界の実態をヒアリングした。その中で、従来から課題であった使用済モーターの銅・鉄分離技術の活用状況について情報収集を行うと共に、高機能金属展において当該技術の紹介を行い、多くの注目を集めた。

3. STEM 教育事業

(1) 経済産業省こどもデーへの参加

○実開催(8月7日～8日)

(一社) 日本伸銅協会、日本鋳業協会、(一社) 日本電線工業会と共同で出展した。日本銅センターは銅に関する下記のプログラムを実施した。

・「銅はどうやって作られるの？」銅の原料・加工・リサイクルを学ぶ。

- ・「素材の違いを調べよう」銅・黄銅と他の金属の違いを調べる。
- ・「銅のスプーンで氷を切ってみよう」銅の熱伝導性を体験。



○オンライン開催(8月7日～31日)

日本銅センターHP内に開設している子供向けwebページ「銅ってすごい！」を経済産業省こどもデーのサイトに登録した。

(2) 第2回夏休み自由研究コンテストの実施

日本銅センター主催で、若い世代の科学・銅への関心を高め、理科教育支援を実施することを目的に、小学4～6年生・中学生を対象に「第2回 銅のすごい力を調べてみよう！ ～夏休み自由研究コンテスト～」を実施した。

募集内容は、本年度から銅全般の特性に関するものであればOKとし、幅広い研究テーマの作品が多数寄せられた。表彰の分類は中学生個人・団体、小学生個人・団体、審査員特別賞。

○募集期間 7月13日～9月30日

○審査員(団体) ・群馬大学大学院理工学府教授 板橋英之氏

・日本鋳業協会

・(一社)日本伸銅協会/DOWAメタルテック

・(一社)日本電線工業会

○受賞者 11月18日、日本銅センターHPにて受賞者を発表した。

【最優秀賞】

中学生の部：破田野 智皇(京都府)「2種の硬貨の殺菌効果の再検討」

小学生の部：園畠 里佳(大阪府)「銅鍋でいれた麦茶は腐りにくいのか」

【優秀賞】

中学生の部：田中 愛夕(滋賀県)「抗菌効果調査②～塩化銅と発酵～」

中学生の部：上野 葉太(東京都)「How do you do with DO?」

中学生の部：井之上 理紗(兵庫県)「硬貨は何で出来ている?」

中学生の部：坂本 和興(東京都)「銅のすごい力 エッチング加工」

小学生の部：堀内 俊治(千葉県)

「藻のそうじを楽しみたい！—銅の殺藻効果の研究—」

小学生の部：村上 博亮（京都府）「ダンゴムシは銅に反応する？」

小学生の部：三宮 煌雅（東京都）

「熱伝導を調べよう～早く熱が伝わる物質はなに？～」

【審査員特別賞】

群馬大学理工学府選出：今井 葉菜（東京都）

「水の中に銅を入れると花が枯れにくくなる！？」

日本鉱業協会選出：山藤 実咲（東京都）「秘密新聞」

（一社）日本伸銅協会(DOWAメタルテック)選出：張田 知華子（京都府）

「花瓶に10円玉を入れると、切り花が長持ちする」というお母さんの豆知識は本当か？？」

（一社）日本電線工業会選出：北野 伊武季（和歌山県）「銅は導体！？」

【団体賞】

中学生の部：該当者なし

小学生の部：森田 彩心（神奈川県）・大久保 由良（東京都）

「～夏の暑さを切り抜けろ～「災害時にも使える、銅を使った熱中症対策」を考えよう！」

○表彰式 受賞者の表彰式を11月30日、TKP秋葉原カンファレンスセンターにて開催し、受賞者の多くとその御家族が出席した。

表彰式終了後、受賞者による研究発表をおこない、それぞれの研究に対して日本銅センターからコメントを送った。

最後に、審査員の群馬大学教授 板橋英之氏による特別講演を行った。



(3)「銅の日」のイベントの実施(8月24日：科学技術館)

日本鉱業協会、(一社)日本伸銅協会、(一社)日本電線工業会及びエネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が参加して、子供向けのイベント「銅の日」を初開催した。

主に、小中学生を対象として、銅についての知識を深めるため、銅の特徴や銅産業の川上から川下まで幅広く紹介する展示説明や実験等を行い、子供達に銅の魅力を伝える場とした。

○主催 (一社)日本銅センター、日本鉱業協会、エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)

○後援 経済産業省、(一社)日本伸銅協会、(一社)日本電線工業会、J X金属(株)、住友金属鉱山(株)、DOWAホールディングス(株)、日鉄鉱業(株)、古河機械金属(株)、三井金属鉱業(株)、三菱マテリアル(株)

○プログラム ・「銅鉱石をさがそう」

・「銅はどうやって作られるの？」 銅の製造方法とリサイクル

・「身近な銅製品」 伸銅品・電線ケーブル

・「銅について調べよう」 実験と観察

各コーナーで調べたこと、学んだことを記録用紙に記入する。



(4)「学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024」に参加 (7月14日：東北大学)

特定非営利活動法人 natural science が毎年実施している、科学や技術の"プロセス"を子どもから大人まで五感で感じられる場づくりを目指した体験型・対話型のイベントである、当該サイエンス・デイに、これまで参加してきた東北大学 多元物質科学研究

研究所 非鉄金属製錬環境科学共同研究部門から参加要請を受けて、日本鉱業協会と共に初めて参加した。

日本銅センターのプログラムは「銅の製造方法とリサイクルの紹介」「銅に関する実験と観察」で、東北大学の学生さん達にも御協力いただき、多くの参加者に銅の魅力を伝えた。



4. ICA/JCDA 共同プロジェクト

(1) 次年度 HVAC&R へ向けての準備

銅管のPRを行う為、メタルジャパン大阪 高機能金属展、及びメタルジャパン 高機能金属展 東京展にて銅配管の優位性のPRを行った。 ※7. (4) 参照



(2) ヒートポンプ普及活動の支援と諸施策の調査

(一財) ヒートポンプ・蓄熱センター(HPTCJ)が実施する、家庭、業務、産業各分野への普及促進活動への支援とその他の諸施策の調査を行った。

その結果、2024 年度はエコキュート累積出荷台数が 1000 万台を突破した。また、2025 年度も継続した給湯省エネ事業（高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金）が実施されることになった。

(3) 自然冷媒への移行に関する情報収集

自然冷媒である二酸化炭素、アンモニア及びプロパン（R290）について、(公社)日本冷凍空調学会、(公社)空気調和・衛生工学会及び(一社)日本冷凍空調工業会から下記の情報収集を行った。

- ① 国内では冷凍冷蔵領域において二酸化炭素及びアンモニアへの転換が加速しているが、プロパンのルームエアコン（RAC）への導入は安全性の観点から規制が厳しく国内機器メーカーは欧州向けの製品を開発している。
- ② RAC 向けに現在使用されている R32 の次世代冷媒の開発については、様々な冷媒が議論されてはいるものの、主流になる製品は不明な状況である。

(4) 導体サイズ最適化の推進

電力ケーブル市場におけるアルミ代替防衛を主目的とすると共に、銅需要の拡大が期待できる最適導体サイズ設計（ECSO）について下記の啓蒙活動を行った。

① 電気設備学会全国大会における論文発表

研究助成している関西大学米津准教授による「ビル内太陽光発電（PV）への ECSO 適用（ECSO 電流表と省エネ/CO2 削減効果簡易算出方法の開発）」の論文について電気設備学会全国大会（2024 年 8 月 27・28 日、東北工業大学）で口頭発表を行った。同内容は月刊「電気と工事」2024 年 12 月号に掲載された。

② 日本における ECSO 適用事例の海外への発信（IEEE への論文投稿）

東部ネットワーク株式会社東部滋賀物流センターの屋根に設置された PV 自家消費施設の動力ケーブルに ECSO 適用した案件を対象に、試算による効果と 2 年間の実績成果を国際会議 PREE2024（2024 2 International Conference on Power and Renewable Energy Engineering, 2024 年 10 月 25-28 日、東北大学）にて米津准教授が発表した。

(5) 高電圧直流送電等の分野で導体への銅採用促進に関する情報収集

下記の情報収集を行った。

- ① 今後普及する北海道内の再生可能エネルギーによる電力需給調整用インフラ整備を目的とし、2019 年から稼働している青函トンネル内の北本連携設備能力増強が予定されている。現在の 90 万 kW から 120 万 kW への送電容量の増強が見込まれる。

- ② 昨今のデータセンターでの電力供給を賄うため、送電転圧 275 kV 電力ケーブルが船橋の新京葉変電所から千葉印西変電所間の 10.1 km に敷設され、2024 年 6 月から稼働している。

(6) 都市部における無電柱化状況把握

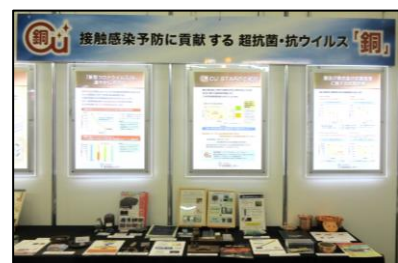
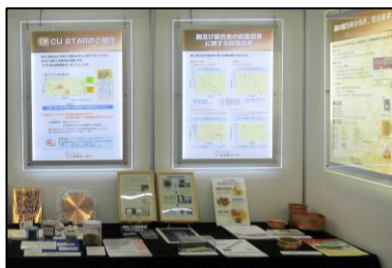
- ① 「NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク」の会員となり、無電柱化の推進状況を把握した。第 8 期推進計画において、計画協議着手ベース（2024 年度末）では、目標値（2025 年度末）を上回り事業着手準備が整っている状況である。東京都では、「無電柱化無料相談窓口」を設置し、国土交通省は「開発事業における無電柱化の推進に向けたオンラインセミナー」を実施する等の支援事業を推進した。
- ② 国土交通省では、令和 7 年度地方税制改正要望事項として「防災上重要な道路の無電柱化のために新設した地下ケーブル等に係る課税標準の特例措置の延長」を盛り込んだ。この理由としては、能登半島地震での電柱傾斜破損が約 3100 本発生し道路封鎖による応急・復旧作業に支障をきたしたこと及び、3 年間の特例措置後の電柱撤去が制度創設前に対し 1.5 倍（年間 150 km）程度に増加した効果があったことを挙げている。

(7) 洋上風力発電所の導入促進を支援

- ① （一社）日本風力発電協会（JWPA）の会員となり、政策部会及び規制緩和ワーキンググループの web 会議に毎月参加して政策動向等の情報収集を行った。現在は、港湾区域の洋上風力発電所の稼働が主流で、本格的な洋上風力発電（100MW 以上）は、2024 年 1 月に石狩新港で 112MW（8 MW 風力発電機 14 基）の稼働に留まっている。
- ② 一般海域における洋上風力発電の第 3 回公募が行われ、合計 4.6GW の能力規模となった。そのほか有望区域 9 か所、準有望区域 11 か所が検討されている。
- ③ 第 7 次エネルギー基本計画での再生可能エネルギーの導入目標として、「風力発電は 2030 年までに 10GW、2040 年までに浮体式も含む 30～45GW の案件を形成すること及び、競争力があり強靱な国内サプライチェーン形成が重要である為、産業界は 2040 年までに国内調達比率 60%を目指す」ことが閣議決定された。
- ④ 9.6MW 風力発電機 25 基で発電能力 240MW の北九州港内洋上風力発電所（ひびきウインドエナジー）が 2025 年度稼働予定。

(8) 超抗菌性能を持つ銅の広報

- ① 「超抗菌銅」PR 活動として、メタルジャパン大阪 高機能金属展、及びメタルジャパン 高機能金属展 東京展にて、抗菌性能試験結果及び、CU STAR 認証製品の展示を行った。 ※ 7.（4）参照



- ②日本銅センターHP内に開設している「超抗菌・抗ウイルス専門サイト」で銅の超抗菌・抗ウイルス性能、CU STAR 認証に関する情報発信を行った。
- ③住友金属鉱山の web サイト「X-MINING」の銅の抗菌性能を紹介する対談企画に参加した。

○対談者

- | | |
|-------------|---------|
| ・北里大学 | 笹原武志氏 |
| ・北里大学病院 | 宮内明廣氏 |
| | 波多野真由美氏 |
| | 上野美穂氏 |
| ・北里環境科学センター | 植竹大輔氏 |
| ・住友金属鉱山 | 仲辻健太郎氏 |
| ・日本銅センター | 小澤隆 |



5. その他のプロジェクト

(1) 設立 60 周年記念式典・祝賀会

日本銅センター設立 60 周年を迎え、記念事業を行った。

① 記念式典開催

11 月 6 日、コートヤード・マリオット銀座東武ホテルにて記念式典を開催した。

出席者は 119 名。

○記念講演

- ・「三菱マテリアル株式会社の銅事業と資源循環の取り組み」

三菱マテリアル株式会社 執行役常務 伊左治勝義氏

- ・「STEM 教育のひろがり～科学を自分らしく表現する～」

東京都市大学 教育開発機構 准教授 五十嵐美樹氏

○祝賀会

ご来賓の経済産業省大臣官房審議官の浦田秀行氏、ICA 代表のファン・イグナシオ・ディアス氏より祝辞をいただいた。

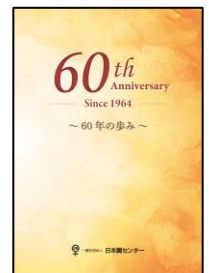


② 設立 60 周年記念誌の発行

11 月 6 日、記念誌「60 年の歩み」を発行した。

設立 50 周年時に発行した「50 年のあゆみ」以降の直近 10 年の活動記録を記載した。

本誌は、記念式典参加者及び関係各所へ配布された。



(2) 超抗菌プロジェクト

①CU STAR 新規メンバー拡大

CU STAR(銅☆)認証件数は 2024 年度末で 38 件。

②展示会での超抗菌性能を PR

「超抗菌銅」PR 活動として、メタルジャパン大阪 高機能金属展及びメタルジャパン高機能金属展 東京展にて、抗菌性能試験結果、及び CU STAR 認証製品の展示を行った。 ※4.(8) 及び 7.(4) 参照

(3) 日本鉱業振興会研究助成事業

本年度は、下記 4 件の試験研究の助成を受けた。

①「海域における銅の環境リスクと効用の比較評価に基づく管理・対策のあり方に関する研究」(最終)

研究実施者：産業技術総合研究所 内藤航

目的：海域における銅の環境影響と効用の比較評価に基づき、両者が調和した合理性の高い現実的な管理指針を提案することを目的とする。

②「高輝度青色半導体レーザを用いた純銅の高速コーティング技術の開発」(最終)

研究実施者：大阪大学 佐藤雄二

目的：銅はウイルス不活化作用を有するため、不特定多数の人が触れる手すり等に利用されているが、バルク材から加工するためコストが高い。そこで銅の高効率なコーティング法を開発する。

③「金属衛生機能部材の社会実装推進を志向した感染リスク新評価体系の構築」（新規）

研究実施者：秋田大学 宮野泰征

目的：金属材料を活用した公衆衛生戦略の確立、衛生機能部材の社会実装推進を目的に、感染リスク（細菌・ウイルス）に対する効果の迅速評価/視覚化を可能とする新評価体系を構築する。

④「水系関連感染細菌の汚染環境改善に向けた抗菌銅材の活用」（新規）

研究実施者：北里環境科学センター 笹原武志

目的：水系関連感染を引き起こすレジオネラ菌や非結核性抗酸菌そして緑膿菌等について汚染状況を把握すると共に、各分離菌株について銅及び銅合金の殺菌効果を評価し、それぞれに最適な銅材を用いて医療・療養環境にとどまらず市井環境の衛生的改善に寄与することを目的とする。

（４）日本銅学会との連携

日本銅学会との連携で第 64 回講演大会／2024 年 10 月 18 日(金)～20 日(日)_栃木を共催した。

6. 銅管・板条技術関係特別事業

（１）銅管開発活動

- ① 銅管メーカー 2 社で構成される銅管開発委員会を概ね隔月で開催し、日本銅学会の研究部会（熱交換器銅管品質管理手法に関する研究部会）の内容について情報を共有した。
- ② 研究部会ではラウンドロビンテストの手法討議に積極的に参加した。また、10 月の講演大会では主として腐食・防食に関する発表を聴講し最新動向の把握に努めた。

（２）継手開発活動

- ① 銅管継手製品メーカー 8 社で構成される継手開発委員会を概ね隔月で開催した。国交省の公共建築工事標準仕様書令和 4 年版の見直しについて、前年度の改定一次案の修正案を討議し、委員会の意見を改定二次案に反映させる事が出来た。同仕様書は、最終案を経て、次年度 4 月に令和 7 年版が発行される予定である。
- ② 関係団体より内容確認を依頼された JIS H 3401(銅及び銅合金の管継手)見直し及び給水装置工事技術指針改訂について委員会で討議し、前者については確認（改正は不要）、後者については継手図版等の更新を（一財）日本規格協会及び（公財）給水工事技術振興財団へ回答した。

(3) 冷媒用被覆銅管活動

- ① 冷媒用被覆銅管の製造及び販売関係 12 社で構成される冷媒用被覆銅管委員会を概ね隔月で開催すると共に、需要家への啓蒙を目的とした冷媒用被覆銅管施工マニュアルについて内容を一部見直した上で 4 月に 2000 部を増刷した。
- ② 委員会では、原管の銅管肉厚に対して規定された JCDA 規格に基づく品質遵守を申し合わせ、継手製品と同様の認証制度導入についても議論した。諸事情を鑑み、当面は現行通り（各社製品への自主適合表示）とするものの、引き続き課題として検討していく予定である。
- ③ 公共建築工事標準仕様書令和 7 年版発行後に実施される予定の（一社）公共建築協会による監理指針見直しについて、断熱材被覆銅管保温施工例の見直しの事前協議を開始した。

(4) アルミ代替え防衛活動

- ① （一社）アルミ配管設備工業会（APEA）の動向について、銅管開発委員会メンバー及び業界紙より情報を収集した。
- ② 銅管の優位性（耐腐食性、ろう付け視認性等）及び銅のリサイクルシステムの優位性について、メタルジャパン大阪 高機能金属展及びメタルジャパン 高機能金属展 東京展、ならびに日本銅センターHPにてPRを行った。※4.（1）及び7.（4）参照



(5) 銅板屋根構法普及活動

2021 年に改定した「銅板屋根構法マニュアル」を、設計者、建築板金組合、職業訓練校、銅板屋根施工業者、ゼネコン、設計事務所等に配布した。

7. PR 関係事業

(1) 機関誌「銅」の発行

197 号(16 頁)、198 号(12 頁)を発刊（発行部数は各 3,500 部）し、正会員およびその会員会社、賛助会員をはじめ、全国の各種ユーザー及び教育機関（大学・図書館）、消費生活センター、官庁（水道事業体等）、需要者団体、マスコミ媒体等に配布した。

①197号（9月30日発行）

洋上風力発電所、重要文化財の銅板屋根葺替工事

日本銅センター賞受賞3件の紹介

「銅の日」イベント、銅センターニュース

②198号（3月31日発行）

家電リサイクルにおける銅回収の実情

高岡銅器メーカー訪問・着色体験

夏休み自由研究コンテスト、設立60周年記念式典

銅センターニュース



（2）パンフレット、リーフレット増刷

・銅のすぐれた超抗菌パワー 2000部 展示会他にて配布

・銅ってすごい！ 2000部 子供向けイベント、科学技術館 Metal Factory 他
で配布

（3）HPの維持管理

2023年にリニューアルしたHPに、STEM教育事業
の実績をまとめたページを追加。事業活動のPRに
活用する。



（4）展示会への出展

年2回開催される高機能金属展に出展した。

・第11回 メタルジャパン大阪 高機能金属展 5月8日～10日；インテックス大阪

・第11回 メタルジャパン 高機能金属展 東京展 10月29日～31日；幕張メッセ

なお、メタルジャパン大阪 高機能金属展は（一社）日本伸銅協会と共同出展、メタル
ジャパン高機能金属展 東京展は、それぞれ単独のブースで出展を行った。

○出展内容

・パネル展示

「銅の超抗菌・抗ウイルス性能」

銅の抗菌・抗ウイルス性能試験結果と CU STAR 認証の紹介を行った。

「銅のリサイクルの現状」

銅資源の循環と、当センターが独自調査を行った「銅のフロー図」を発表した。

「やっぱり、選ばれるのは「銅管」です」

空調用冷媒銅配管及び継手の優位性を紹介。

- ・製品等の展示

CU STAR 認証製品、銅管を含む幅広い分野の高機能銅製品、銅原料として銅鉱石・リサイクル原料等。

○出展参加企業

- ・CU STAR 認証製品

MTA合金・京ワークス・佐野機工・新光金属・星和電機・水野金属商事・村木商事・山崎金属産業・渡辺合金铸造所

- ・高機能銅製品、大学、一般の抗菌関係の製品、リサイクル等

アイジェクト・NJT銅管・大阪大学接合科学研究所・岡谷銅機・カウゼル・KMCT・新光機器・三菱マテリアルトレーディング・三芳合金工業・やまと真空工業

○協賛団体セミナー

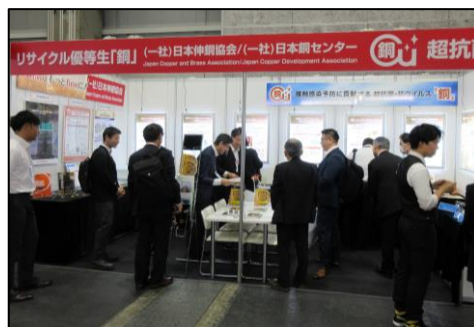
「半導体を支えるリードフレーム用銅合金の開発事例と今後の展望」

神戸製鋼所 素形材事業部門 銅板ユニット 銅板工場 開発室

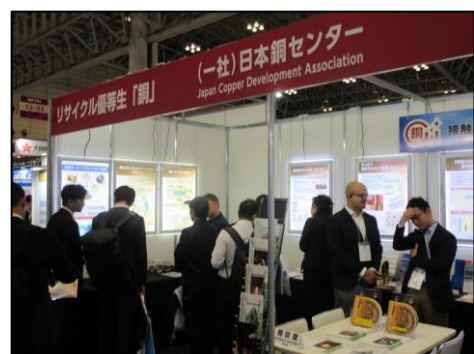
主任研究員 野村幸矢氏

「持続可能な社会実現へ向けた銅材料の貢献と銅リサイクルの実態」

日本銅センター 事務局長 中山宏明



メタルジャパン大阪 高機能金属展



メタルジャパン 高機能金属展 東京展

(5) HP 専門サイトの維持

○専門サイト「空調用冷媒『銅』配管」及び「超抗菌・抗ウイルス」にて情報更新等の維持管理を行った。

○今後の専門サイト拡充の準備検討を行った。

(6) はんだ付・ろう付講習会への協力

○NPO給排水設備研究会で実施する配管技能講習会が9月25日実施開催され、銅管のはんだ付講習の支援を行った。

8. 日本銅センター賞事業

第51回日本銅センター賞の表彰式を6月5日、ホテル椿山荘東京にて開催した。
受賞者は次の通り。

受賞者	案件名
株式会社ウチノ板金 隈研吾建築都市設計事務所 岡庭建設株式会社	「和國商店」を建築。循環型建築として外装に使用済銅板を利用したアイデア、内装は真鍮仕上げの建具製作等、銅を使った建築板金のイメージアップに貢献
関西大学 米津大吾 野原グループ株式会社 タツタ電線株式会社	PV自家消費施設へのECSO(電線太径化)初導入による銅需要促進への寄与
岸上バルブ株式会社	船舶用青銅バルブに銅合金を使用し、銅の需要促進に貢献



表彰式記念写真

9. 共通事業

(1) 学会、外部セミナー展示会等への参加

- ①防菌防黴学会、日本銅学会、WIND サミット等へ参加した。
- ②環境・リサイクル、モビリティ、スマートエネルギー、建築・建材、データセンター関係等の展示会にて銅の需要動向及びリサイクル等について情報を収集した。

(2) 団体規格の認証・更新等

- ① 給水・給湯配管用及び冷媒配管用管継手の工場認定について、定期審査を3社に対して実施した。
- ② 冷媒用銅及び銅合金管に用いる機械的管継手の製品認証について、定期審査を3製品、新規審査を4製品に対して実施した。内訳は以下の通りである。

〈認定工場定期維持審査〉

- 11月：(株)多久製作所 関西工場 (JCDA 0001)
- 1月：旭日産業 (株) 北関東物流センター (JCDA 0001)
- 2月：N J T銅管 (株) T F 工場 (JCDA 0001 及び JCDA 0002)

〈製品認証審査〉

- 5月：(株)ベンカン 冷媒ダブルプレス (新規認証)
- 5月：N J T銅管 (株) RG プレス (定期審査)
- 6月：東尾メック (株) おっぞんくんB (定期審査)
- 6月：因幡電機産業 (株) ファイヤーレスジョイント (定期審査)
- 10月：(株)タブチ G L ジョイント (新規認証)
- 11月：東尾メック (株) S' B ナット (新規認証)
- 12月：イハラサイエンス(株) E-chan (新規認証)

- ③ 銅管に関する規格については、前年度見直しに取り組んだ JIS H 3330 が4月に公示され、JIS H 3330 (外面被覆銅管)：2024 として改正された。
- ④ JIS H 3330 の改正を受けて日本水道協会規格である JWWA H 101 (水道用銅管) の見直しに着手し、銅管メーカーも含めた関係者協議による改正案を取り纏め、同案は3月の給水装置に関する規格専門委員会にて審議、承認された。

(3) 情報発信と適切な資料の開示

- ①web サイトからの各種問い合わせについて、2024 年度は131 件(法人103 件、個人28 件)、その他銅に関する一般的な問い合わせについては、例年通り各担当者が責任を持って対応した。
- ② (一社) 日本伸銅協会と合同で web による定例記者会見を毎月開催。
毎回、新聞社10 社程度が出席。主に展示会やイベント等のトピックスを紹介した。

- ③賛助会員に対して、メタルジャパン大阪 高機能金属展、及びメタルジャパン 高機能金属展 東京展への出展募集、イベント情報、HP 更新状況等の発信を行った。
- ④HP、SNS 等で銅に関する情報・日本銅センターの活動等情報発信を実施した。SNS は従来の Facebook に加え X の運用を開始した。

<参考資料1> 作成資料一覧

2024 年度製作の広報関連出版物、web ページ等

タイトル	内 容	発行年月
銅のすぐれた超抗菌パワー	抗菌パンフレット、令和 5 年版増刷。 (A4 変形判オールカラー 20 頁)	2024 年 4 月
銅（どう）ってすごい！	子供向けパンフレット増刷。 (A4 変形判オールカラー 16 頁)	2024 年 7 月
「銅」誌 197 号	日本銅センター機関誌 (A4 判オールカラー 16 頁)	2024 年 9 月
日本銅センターHP	STEM 教育事業 web ページ追加	2025 年 1 月
「銅」誌 198 号	日本銅センター機関誌 (A4 判オールカラー 12 頁)	2025 年 3 月